

# 住吉っさん



序



蒲風生

住吉大社宮司道弘書



# 虎嘯風生

『淮南子』

どら うそぶ かぜしょう  
虎（虎）嘯いて風生ず

虎がほえれば風が巻きおこるといわれるところから、英雄が風雲に乗じて大事業にのり出して活躍することのたとえ。

コロナ禍も漸うに下火になる兆が見えて来たかと思えば、依然としてさらなる再拡大も懸念され、先行きが不透明な状況でまだまだ油断出来ません。決められたルールを守り、新しい年には、長期間の我慢、鬱積から解放されたいものです。

虎が雄叫びを上げて疾走する如く、社会全体が勇躍邁進し、コロナ禍以前のマスクのない通常の生活に立ち返ることを切に祈る次第です。



住吉大社 宮司

高井 道弘

## 住吉踊

再興一〇〇年



住吉踊は住吉大社に伝来する民俗芸能です。御幣を掲げた赤塗りの大傘を立て、それを中心に円陣を組んで、傘の柄を叩きながら音頭をとり、唄と拍子に合せて踊る芸能で、僧形の衣装に、茜染の布を縁に垂れめぐらした菅笠をかぶり、手には五色絹と鈴がついた団扇を持って、飛び跳ねながら心の字を書くように踊ります。

伝承では、神功皇后が堺の浜に上陸されたのを祝って、住民が踊った吉志舞に由来するといひ、中世の頃からは住吉神宮寺の社僧がこれを踊りました。やがて、願人坊主が大道芸として踊るようになり、諸国を巡って「天下泰平、五穀豊穰」を祈りつつ披露したといひます。

江戸時代には住吉踊が全国にひろく伝播しました。和歌山県田辺市の長野八幡神社住吉踊（県指定無形民俗文化財）、愛知県一宮市の宮後住吉踊（市指定無形文化財）などは現代まで継承されています。さらに、江戸芸かつばれ、万作踊にも影響を与えたということです。

明治維新で住吉神宮寺が廃絶したことともない、一度は住吉大社の祭礼行事から住吉踊が消滅してしまいました。しかし、その後も民間に伝承していたことから、大正10年（1921）5月、大阪楽正会（会長 扇野菊松）の手によって復元されました。翌年の大正11年（1922）3月28日、貞明皇后（大正天皇の皇后）の住吉行啓に際して正式にお披露目となり、公式に住吉踊が再興となりました。

今日の住吉踊は、大阪楽正会の後、住吉会、住吉踊保存会などを経て、昭和48年（1973）9月1日には住吉踊保存後援会が結成され、教導師（音頭取り）や童女（踊り子）の育成に取り組んでいます。

住吉踊保存後援会の会長、  
長谷川八重子さま（87）にお話を聞きました。

— 住吉踊との出会いを教えてください。



「私自身は住吉踊の経験者ではありませんが、昭和44年（1969）頃、娘たちが童女に参加したことがきっかけです。その後、お世話することになりました。」

— ということは、関わって半世紀を超えることになりますね。

「そうですね。早いものです。最初は住吉踊の会長が豆新の青木新一郎さんの時で、次の会長の吉川ヒサさんの時にお手伝いして、住吉踊の幹事に、支部長になって、平成8年（1996）には会長になって今になります。そろそろ引退を考えているところです。」

— 住吉踊が再興して百年を迎えますが、ご感想をお願いします。

「伝統ある住吉踊がなんとか今まで継承できていますのは、ほんまに先輩方のお力と感じています。私もなんだかんだと、その半分以上の年月を関わってきたことになりましたが、たくさんの方のお蔭やと感謝しております。」

— 苦労したことはありませんか。

「「いつこも、しんどいことはありません。それぞれの支部長・幹事さん達が一生懸命に動いてくれていますので、コロナ禍を除けば、会の活動はうまくやれてくれました。」

ありがたいことです。」

— 印象に残った出来事を教えてください。

「いろんなことがありました。娘たちが大阪万博で公演したのいい思い出です。国立文楽劇場のこけら落しにも出ましたし、大阪パレード、御堂筋パレードなどたくさん参加しています。ほかにも堺の世界民俗芸能祭、最近では北前船フォーラム、北海道小樽の住吉神社遷座祭など、挙げればキリがないほどですね。特に印象に残っているのは、松竹歌劇団（OSK日本歌劇団）の皆さんが住吉踊を習いに来たことです※。皆さん、お綺麗やった。」

※注：平成18年（2006）大阪松竹座「秋のおどりMOVIE ON!!」の公演のため、OSKの大貫誠・桜花昇・高世麻央らが住吉踊を伝習した出来事。

— 未来にむけて一言お願いします。

「住吉踊のことは何も心配しておりません。皆さんが熱心にお世話してくださって、現

段階で童女は200人弱もおりますでしょうか、保存後援会としては充分にご奉仕できていると思います。

教導師も（田中）玲子さん、（岩崎）大吾さん、（徳永）勝志さん、（徳井）聡司さんなど若い人もやっていただいています。どうか末永く盛り立ててやってほしいです。」

— 会長、ありがとうございます。



日本歌劇団と住吉踊

# 太古の歴史と稀有なるご縁に想う



住吉大社と高橋家とのご縁は明治後期に曾祖父 善宗寺20世住職 高橋静事せいじが当時の宮司様より直直に楽人として出仕依頼を受けたことが起源です。爾来100有余年御田植神事・住吉祭（夏祭り）・20年に一度斎行される式年遷宮等、多くの重要な神事に於ける雅楽を奏する家柄として歴代に渡りご奉仕させて頂いており、これは現在の住吉大社奏楽部に繋がっています。

神社がお寺に依頼を？その所以は善宗寺の存する堺が太古の歴史を持つ事にあります。

明治政府による神仏分離令以前の遙か古来より、神道と仏教の区別ははっきりとはされていませんでした。特に堺に於いては、古より商売繁盛・大漁・五穀豊穡・安全を祈願する『すみよっさん』への信仰は篤く、堺を含めた南大阪地区には「住吉泉州音楽講」という住吉大社に雅楽で奉仕をする集りも存在しました。長い歴史の中で培われた地域性や人々の繋がりがもたらした稀有なご縁であったのです。

最近では社寺合同で勤修される神事法要が耳目を集めていますが、明治の世に於ける宮司様と静事との邂逅かいこうこそが神仏融合という古来よりの当たり前にして実は最先端・本来の形に戻るイノベーションでした。

静事は若年より東京の楽人に師事し、長じては雅楽演奏の技量のみならず知識・人物ともに優れた雅楽人として楽楽会らくがかいを結成・主宰し自己研鑽及び後進育成に

励みました。

静事の精神は、静事に師事した楽人たちとその子孫によって全国に広まり今日の雅楽の普及発展に多大なる寄与を致しました。

高橋家には、住吉大社へのご奉仕を始め、厳島神社や旧満洲大連にも出向し雅楽演奏、指導に携わった記録や他多くの寺社仏閣への指導を行った記録が手書きの譜面と共に伝わっています。

他の雅楽団体に乞われれば仲間を率いて参画し、演奏を助け、技術を伝授し、静事と縁のある寺社仏閣とこれらの団体との橋渡しにも大いに貢献しました。

楽楽会の名称は今なお善宗寺と真宗文化研究会雅楽部（播州）が引き継いでいます。

住吉大社との稀有なるご縁を引き継ぎ、後継副住職龍人に繋ぐ使命と責任を担う者として、自己の研鑽を怠らず後進の育成に励む決意を新たに致すところです。

月夜に松明の灯のなか、厳かに第49回式年遷宮が斎行されました。前回、前々回の式年遷宮にもご奉仕した父前住職静龍せいろゆうと共にその空間に遇え、太古の歴史と善宗寺の歴代たちに想いを馳せることができましたことは私の雅楽人生に於いて貴重な体験でありました。

住吉大社奏楽部

浄土真宗本願寺派 多聞山善宗寺 24世住職

高橋昭人



# 住吉さんと太閤さん 第三回

## ——天下茶屋の伝説をめぐって——

北海道大学大学院／日本学術振興会特別研究員

竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心に、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。

今回は天下茶屋の話題です。南海本線の駅名として今も名前を残している天下茶屋について、皆さんはどのくらいご存知でしょうか？ 前回の記事で、『祇園祭礼信仰記』（一七五七年初演）には「芽木家の天下茶屋」と「是斎屋の天下茶屋」という、二つの天下茶屋の要素が含まれていることをご紹介しました。つまり、『祇園祭礼信仰記』では本家本元の「芽木家の天下茶屋」と、それとはまた別の「是斎屋の天下茶屋」（秀吉の死後三十年あまりしてから開業）が同じものと見做されていたというわけです。

この『祇園祭礼信仰記』による「芽木家の天下茶屋」「是斎屋の天下茶屋」という図式は、同作が上演された江戸後期から昭和ころまで広まっていたようで、

一九八六年に刊行された『大阪史蹟辞典』は、以下に挙げる通り、当時の是斎屋跡（天下茶屋公園）に「天下茶屋由来立札」なるものがあったことを紹介しています。

「遠州の郷土松下嘉平治（秀吉旧主）は天正のはじめ、三三〇坪の名園と広大な邸をひらいて、松下是斎と改めた。秀吉はしばしば来たり、天下さまの茶屋、天下茶屋という。明治天皇は明治十年二月、この旧跡に臨幸し、英雄秀吉をしのんだ」。

しかしこの話は浄瑠璃「祇園祭礼信仰記」（中略）に付会したものである。



現在の天下茶屋公園にある是齋屋跡の碑（1925年建立）。訪れた時は草に埋もれていました。

現在は「芽木家の天下茶屋」と「是齋屋の天下茶屋」が別の家であったことが多くの研究によって明らかになったためか、天下茶屋公園にこの立札はありません。ともあれ、『祇園祭礼信仰記』は、江戸後期の天下茶屋像が、いわば「伝説」として、芽木家と是齋屋の意思に拘わらずさまざまな形に作り上げられていったことを示す好例と言えるでしょう。なお、この他にも「芽木家の天下茶屋Ⅱ 是齋屋の天下茶屋」とする例として、弥次さん喜多さんの珍道中を記して人気を博した十返舎一九『東海道中膝栗毛』（一八〇二〜一八一四刊）の影響もあったことがわかっていますが、これについては『大阪の地名由来辞典』等、多くの書籍で詳しく紹介されていますので、ここでは割愛します。

ちなみに、ここに示した是齋屋の引札（チラシ）「是齋来由并店図」からもわかることですが、江戸時



大阪歴史博物館蔵「是齋来由并店図」。上欄に「是齋来由」として店の由来が記される。壺天閣は左端に見える離れ屋。

代後期における是齋屋は、秀吉が滞在した茶屋跡として敷地内にある「壺天閣」を示しており、「芽木家の天下茶屋」とはまた別の天下茶屋だと主張していました。また、是齋屋が販売していた和中断という菓は大坂を代表する売菓で（「大坂市中売菓数望」一八一六年刷を参照）、ネームバリューとしては是齋屋が圧倒的な力を示していました。ですから、「芽木家の天下茶屋」と「是齋屋の天下茶屋」の地理的な距離が三〇〇メートル程度しか離れていなくても、当地を訪れない人は芽木家の天下茶屋の存在を知らなかったのかもしれませんが。なお、後掲する『座談会 紀州街道天下茶屋を語る会の記録』では、地元の人々が「芽木家の天下茶屋」「是齋屋の天下茶屋」をそれぞれ「天下茶屋」として認識していたことが語られています。

さて、前置きが長くなりましたが、では秀吉はそもそもなぜ天下茶屋に立ち寄ったのでしょうか。実はこの動機に注目すると、現在でも秀吉がここに立ち寄った理由が「住吉大社参詣の折」（住吉大社説）か、「堺往来の折」（堺説）かという二つの説に分かれていることが見えてきます。この二説について、まずは住吉大社説からご紹介したいと思います。

もとこの地は勝間新家と称したが、芽木光立が武野紹鵬がいた場所に天正年間（一五七三～九二）に茶店を出し、豊臣秀吉が住吉社参詣の時に休憩したことから太閤殿下茶屋といひ、転じて天下茶屋と呼ばれるようになったという。（『大阪の地名由来辞典』。傍線部は筆者によります。以下同様です）

この通り、この文献では天下茶屋の故事が、秀吉が住吉大社に詣でた際の出来事とされています。一方、次のような文献では堺説が採用されています。

さて、天下茶屋の名の由来であるが、それはこの天神社の向いにあった茶店に由来するといふ。『住吉名所鑑』には「昔豊臣秀吉公、堺政所へ入御の時、此茶店に於て御休息し給ひてより、世に天下茶屋と称す。今の人地名の如くせり」とあるが、いつのまにか旧名勝間新家が通り名に取って代わられたのである。（『大阪の歴史と風土』）



現在の芽木家天下茶屋跡。中央に見える建物は土蔵で、往時の名残を偲ばせます。

この二説はともに江戸時代中期～後期にかけて出てきたもので、明治以降の先行研究を見わたすと住吉大社説は『大阪繁盛詩』（田中楽美著、一八六二刊）、堺説は『住吉名所鑑』（田寺如柳著、一七二七刊）および『摂津名所図会』（秋里籬鳥著、一七九六～一七九八刊）、『住吉名勝図会』（秋里籬鳥著、一七九五刊）、『摂津名所図会大成』（晩鐘成著、一八五五以降刊）に典拠が指摘されてきたように思えます。現在は、例えば今の天下茶屋跡に立つ碑に記されるように両説ともに併記して挙あげられることも多く、『大阪史蹟辞典』をはじめとした数書で



ことがわかります。従って、そもそものことの真偽はともかくとして、住吉大社説は「芽木家の天下茶屋」に代々伝わったものであり、公認されていた説だったと言えるでしょう。それで堺説が住吉大社説に対して副次的な位置になってしまったのかと考えられます。

では、堺説はまったくあり得ない説なのでしょう。この問題は、現在の紀州街道の成り立ちと深くかわってきます。先ほど挙げた座談会では、高浜俊明氏（天下茶屋出身、饅頭屋経営）が以下のような発言をし、芽木氏もそれを認めています。

芽木さんのお母さんから聞いた話ですが、勝間街道と熊野街道はできておったけど、紀州街道は太閤秀吉が堺、和歌山の方へ行ける道を

つくれといったが、天神ノ森は物すごい密林で、芽木さんの領地でもあって、先祖伝来からだれであってもここは通さないという家訓があったので頑として拒否された。

ところが、やっぱり太閤秀吉は大変人たらしというか、非常に調略のうまい人で、「正行の子孫やないか（芽木家は楠木正成の子、正行の子孫を自称していました…竹内注）、今は楠木は衰微しておるけども、楠から芽が出るようにきつと復興せい。それでおまえに芽木という名前を与える」それで芽木という名前をもらいはって、それで太閤さんにひとつ道開けたらということで、難工事でしたが紀州街道ができた。



紀州街道に面して建つ天下茶屋跡の碑。横断歩道を渡って向かい側に天神森天満宮があります（境内は神域につき要写真撮影許可）。

つまり、芽木家の伝承では天下茶屋から堺、和歌山に通じる紀州街道を開拓したのは芽木家であり、当然それを命じた秀吉はそれまで堺と天下茶屋を往來することができなかったと思われます。右記の問題について、秀吉が芽木家に命じて紀州街道を整備させたという歴史的事実は確認できません。しかし、芽木家の邸宅跡とかつて密林だったという天神森天満宮は今、芽木家の伝承を裏付けるかのように紀州街道沿いにあります。歴史学的研究を参照すると、三浦圭一「文献からみた和泉の古道」は、秀吉の時代の紀州街道が大阪湾岸に居住する住民を繋ぐ生活道路として部分的に存在していたことは認めつつも、紀州街道としての文献の初出が秀吉の死後暫く経った一六九一年まで現れてこず（坂口家文書）、その街道としての定着は江戸時代の半ばである一七〇四年のことであったと指摘しています。また、『日本歴史地名大系』によれば紀州街道は地方的な街道で、その発展は一七〇一年に和歌山藩主の参勤交代のための通行に使われるようになったことがきっかけとされています。堺説を唱える説で現在確認できるもっとも古い文献は『住吉名所鑑』（二七・二七刊）で、堺と天下茶屋を直接つなぐ紀州街道が整備されたあとのこととです。

以上、今回は秀吉が天下茶屋を訪れた「動機」に注目して住吉大社と秀吉の関係を考えてみました。次回は天下茶屋に伝わるもう一つの伝承「天下茶屋の仇討ち」について考えていきたいと思います。

## 参考文献

- ・『座談会 紀州街道天下茶屋を語る会の記録』（西成区役所総務課、一九九四年）
- ・『日本歴史地名大系』第二十八卷（平凡社、一九八六年）
- ・南木生「天下茶屋舊跡を巡りて」『上方』一二〇号、一九四〇年
- ・堀田暁生編『大阪の地名由来辞典』（東京堂出版、二〇一〇年）
- ・宮本又次「大阪の歴史と風土」（毎日放送、一九七三年）
- ・三浦圭一「文献から見た和泉の古道」『近畿地方の歴史の道』、海路書院、二〇〇五年
- ・三善貞司編『大阪史蹟辞典』（清文堂出版、一九八六年）

# 住吉開帳 社頭の橘樹に寄せて

住吉大社教学顧問

八木 意知男

## はじめに

住吉大神三柱は、

筑紫の日向の橘の小戸の櫛原

（『住吉大社神代記』第一二六～七行）

に出現したとし、神功皇后の間には「日向国の橘の小門の水底に居」（『住吉大社神代記』第一九九行）まずとお答えになっている。

ところで、この「橘」について『住吉松葉大記』は「橘は木名」とし、その一方で『日本紀私記』及び『宗砌之説』にひかれて

筑前国粕屋郡に立花と云ふ所あり、其所に山あり三の峰高く峙ち諸木翠を積て勝景類なき山也。則是をも立花山と云う。

と、地名説へ傾く。しかし、地名説に傾いたとしても「橘は木名」説は消え去らない。地名「立花」は橘樹が生えていた故なのか否か明らかにないからである。

『魏志』倭人伝（岩波文庫所収新訂版）は、倭国の国俗を伝えて次の如くいう。

有ニ薑・橘・椒・藁荷ニ、不レ知三以為ニ滋味ニ。

（薑・橘・椒・藁荷あるも、  
以て滋味となすを知らず。）

ここには自生橘の存在が録されてある。ただし薬種としての活用はなされていなかったのである。この倭の説明は『三国志』倭人条にも見える。常緑樹にしてアゲハ蝶やヒヨドリの好物たる柑橘の類が、宮崎・高知・三重・静岡・山口辺には古くより自生していたと考えられる。為に、左近のサクラ・右近のタチバナが自生種樹木を代表して存在することになる。

## 住吉大社と橘

摂津国住吉大社には、かつて御神木と称された「橘樹」が存在した。それは、寛政十年（二七九八）九月に発行された『摂津名所図会』巻一の「住吉

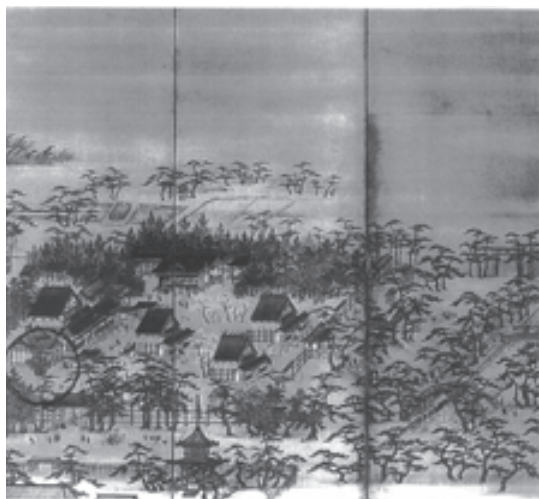
大神社」部分に

○橘樹<sup>たちばな</sup>（当社の秘木として本殿北の側に樹<sup>う</sup>ゆる。社伝云ふ、神功皇后新羅を征したまひ我が日本に従ふの後、かの国より八十艘<sup>みづきふね</sup>の貢物を奉獻す。その中に橘をもつて第一の貢とす。この時よりここに植ゑ初めしなり）

というのがこれであり、『住吉名勝図会』巻四にも見える。この「橘樹」は、『住吉松葉大記』巻十六「間敷部」に元禄十五年（一七〇三）の記録として

橘樹井垣 八角 經一丈四尺八寸

とある。そして、これは岩鼻・難波田編『神社古図集続編』（平成二年、臨川書店）に所載の狩野山雪筆「住吉社頭図屏風」（寛永期カ）にも認められる（図-A参照）。



（図-A）  
住吉社頭図屏風（個人蔵、部分）  
難波田・岩鼻編『神社古図集 続編』（臨川書店、平成2年刊）所載

また、巻九『住吉松葉大記』「勘文部」日本第一鎮守顕給事条に「三韓橘を以て貢とし、今に至るまで社内に橘を植置事」に

其<sup>それ</sup>より以降新羅・百濟・高麗の三国、同じく数十艘の船を揃へ、絹布の類を始として色々の年貢を大日本国へ調進す。其中に橘は第一の祝の物なればとして、第一の船の上積に橘を進上す。仍て社内に橘を植置しむ。

と記している。

すなわち、住吉大社社頭の橘樹は、住吉神の縁<sup>ゆかり</sup>というよりもむしろ神功皇后所縁のイメージを以つて植えられていたと思量されるのである。

次に、『住吉松葉大記』巻十五「政所膳供」神厨三薦菓物所之役儀条に

正月元日、四社御菓子<sup>並</sup>小神十五社・五所前、  
糰餅四箇入三管子<sup>一</sup>、但敷<sup>ニ</sup>賢木<sup>一</sup>其上居<sup>レ</sup>之。  
又以<sup>ニ</sup>多智婆奈<sup>一</sup>置<sup>ニ</sup>其上<sup>一</sup>。

と見える。ここでは今日俗に鏡餅の上に据えるダイダイの類を「多智婆奈（タチバナ）」としている。また「田辺神社御供」条には

大根 神酒（壺入） 干魚（一片張<sup>ニ</sup>之漫疏葉<sup>一</sup>） 大  
柑子 蜜柑 小柑子 橘 串柿 昆布 薺櫃  
搗栗 穂俵 狼毒草

と、四種の柑橘類が記されてある。これで見る限り、住吉社では四種類の柑橘が併用されて居り、柑橘類全体を橘として扱っているのではない。このことは極めて有意味と思量する。

## 橘の滋味

『魏志』倭人伝が「滋味となすを知らず」と記すタチバナの滋味とは何か。ここでは『続日本紀』桓武天皇延暦六年（七八七）年五月十五日条の典藥寮言上、

「唐の蘇敬が注解した『新修本草』は、梁の陶隱居の『集注本草』と比べ調べてみますと、『新修本草』の方が百余条も増補しています。また今私どもが採取して用いています葉草は、蘇敬の説明にも合っています。それでこの書『新修本草』を採用したいと思います。」

に対して天皇が許可した宮内庁書陵部編図書寮叢刊所収『新修本草 残巻』（明治書院、昭和五十八年）を見ると、次の如くある。

橘柚 味辛、温。無毒。主胸中瘕熱氣、利水穀。下氣、止嘔效、除膀胱留熱、下停水五淋、利小便。主脾不消穀氣充胸中・吐逆・霍乱・止洩・去寸白。久服、去臭・下氣・通神。輕身・長年。

一名、橘皮。生南山川谷、生江南。十月、採。

○一部分漢字を現在通行字体に改めた。  
○注記部は是を省略した。

すなわち、藥種としての橘柚類はその果実を十月（陰曆）に採り、果皮（橘皮）を使用した。今日、七味唐辛子に入っているのはその一例。果肉を去り串柿の如くして干したものが田道間守の持ち帰った「輕身・長年」（『新修本草』の藥種であり、果肉を去ったところに味噌を詰めて干した物が柚餅子である。

ところで、田道間守は、垂仁天皇崩御の後に本朝に帰り着いた。泣ち悲歎いた彼は『垂仁天皇記』（角川文庫所収本）には

天皇の御陵の戸に献り置きて、その木の実を擎（さ）げて、叫（お）び哭（な）びて白さく、「常世の国の時じくの香（か）の木の實（み）を持ちまる上りて侍ふ」とまをして遂に哭（な）び死（し）にぎ。その時じくの香（か）の木の実（み）は今の橘なり。

とある。人々は、この田道間守の生命（いのち）に忠節心を観（み）たことである。

次いで、『続日本紀』聖武天皇天平八年（七三六）十一月十一日条の、葛城王・佐為王等の上奏文が載る。そこには

（前略）

時に葛城王（後の橘宿祢諸兄らの母親である贈從一位の<sup>あぐさめいのかみ</sup>皇犬養橘宿祢（三千代）は、上は淨御原朝廷から、下は藤原大宮に及ぶまで、身命を尽くして天皇にお仕えし、親に孝を尽くすのと同じ気持で、天皇に忠を尽くしてきました。朝早くから夜おそくまで労苦を忘れ、代々の天皇に力を尽くしてお仕えしてまいりました。

和銅元年十一月二十一日には、国を挙げての大嘗祭にお仕え申し上げ、二十五日の<sup>とよのあかりのせま</sup>豊明節会の御宴において、天皇より忠誠の深さをお誉め頂き、酒杯に浮かべた橘を賜りました。その時天皇は仰せられました。「橘は果物の中でも最高のもので、人々の好むものである。枝は霜雪にもめげず繁茂し、葉は寒暑にあっても凋<sup>しぼ</sup>まない。光沢は珠玉とも競うほどである。金や銀に交じりあっても、それに劣らず美しい。このような橘にちなんで汝の姓として橘宿祢を与えよう」と。（以下略）

引用は宇治谷孟氏現代語訳『続日本紀』  
講談社学術文庫所収本に依る。

とある。そして、ここに見える「豊明節会の御宴」では歌会も催された。『万葉集』（岩波文庫所収『新訓万葉集』佐佐木信綱）巻六、一〇〇九番歌がそれである。

（天平八年）冬十一月、左大弁葛城王（諸兄）等に、

姓橘氏を賜ひし時、御製の歌（元正）一首

橘は実さへ花さへその葉さへ 枝に霜降れど  
いや常<sup>とこは</sup>葉の樹<sup>き</sup>

右は、冬十一月九日、從三位葛城王、從四位土佐為王等、皇族の高名を辞して外家の橘の姓を賜ふこと已に訖りぬ。時に太上天皇、皇后、共に皇后宮にましまして、肆宴きこしめし、即ち橘を<sup>ほ</sup>賀く歌を作り給ひ、并御酒を宿祢等に賜ひき。或は云はく、この歌一首は、太上天皇の御歌なり。但し、天皇皇后の御歌各一首ありといへば、その歌遺落していまだ探り求むること得ず。今案内を検するに、八年十一月九日、葛城王等、橘宿祢の姓を願ひて表を上り、十七日を以ちて、表の乞に依りて、橘宿祢を賜ひきといへり。

ここに於ける橘は、最上の果物という条、それは葉種としての話ではない。常緑広葉樹が霜雪を経て操を貞す、すなわち不変の忠節・孝養を表わす、というのである。故に、神功皇后伝へ戻すならば、新羅国からの貢物の第一船荷上に立ててあつたとするのは真に適正めいて聞こえる。本朝への忠誠と不変の証として機能したと考えられるからである。

なお、『蜀山人全集』巻二所収『めでた百首夷歌』に

## 橘

たち花は実さへ花さへめでたさは やはりむ  
かしの常磐木のまゝ  
がある。右の歌の享受例として記して置く。

## 橘の誉

『常陸国風土記』（沖森・佐藤・矢嶋編『風土記』、山川出版社、二〇一六年）に、次の二ヶ条がある。

### (1) 行方郡条

郡の側の居邑に、橘の樹生へり

### (2) 香島郡条

病める者、此の沼の蓮を食はば、早く差えて  
驗あり。鮎、多に住めり。前に郡を置ける  
所にして、多に橘を蒔ゑて、其の実味し。

常陸すなわち今日の茨城県地方には風土記時代に「橘樹」を植える向きがあつたのである。

次に、『応神天皇紀』十一年条に、日向国の美女髪長媛の存在が奏された。そして十三年秋九月十日に徴された。

秋九月の中に、髪長媛、日向より至れり。便ち桑津邑に安置らしむ。爰に皇子大鷦鷯尊（後の仁德天皇）、髪長媛を見たまふに及びて、其の形の美麗に感でて、常に恋ぶ情有します。是

に、天皇、大鷦鷯尊の髪長媛に感づるを知しめして配せむと欲す。是を以て、天皇、後宮に宴きこしめす日に、始めて髪長媛を喚して、因りて、宴の席に坐らしむ。時に大鷦鷯尊を攜して、髪長媛を指したまひて、乃ち歌して曰く、

いざ吾君 野に蒜摘みに 蒜摘みに 我が  
行く道に 香ぐはし 花橘 下枝らは 人  
皆取り 上枝は 鳥居枯らし 三栗の  
中枝の ふほごもり 赤れる嬢女 いざさ  
かばえな

この「いざ吾君」歌では、髪長媛を花橘に比定し、譬え、歌っている。しかも彼女は住吉神縁りの日向の嬢女であり、「安置らしめ」た桑津邑は住吉郡内。次に、『皇極天皇紀』三年秋七月条に、常世の神たる虫を祭る者は富と寿を得ることが出来る、と布教した事件があつた。主犯大生部多は「東国不尽河の辺の人」と伝え、その虫について、

此の虫は、常に橘の樹に生る。或は曼椒に生る。  
〔曼椒、此をば褒曾紀と云ふ。〕其の長さ四寸余、其の大きさは頭指許。其色、緑にして有黒点なり。其兒全ら養蚕に似れり。

と記される。この特徴は黒揚羽蝶の幼虫そのものである。今日の東の柑橘類主産地に咲いた徒花である。

更にまた、『天智天皇紀』十年（六七二）正月条には次の如くある。

是の月に、大錦下<sup>だいきんげ</sup>を以て、佐平余自信・沙宅紹明<sup>のりのつかさのおほきすけ</sup>〔法官大輔ぞ〕に授く。小錦下<sup>せうきんげ</sup>を以て、鬼室集斯<sup>ふみのつかさのかみ</sup>〔学職頭ぞ〕に授く。大山下<sup>だいさんげ</sup>を以て、達率谷那晋首<sup>つはもの</sup>〔兵法に閑へり〕・木素貴子<sup>な</sup>〔兵法に閑へり〕・憶礼福留<sup>おの</sup>〔兵法に閑へり〕・答体春初<sup>こたてはる</sup>〔兵法に閑へり〕・炆日比子贊波羅金羅<sup>ふひひこさんばらきんら</sup>〔葉を解れり〕・鬼室集信<sup>きむろしむね</sup>〔葉を解れり〕に授く。小山上<sup>せうせんじやう</sup>を以て、達率徳頂上<sup>だつそつとくていじやう</sup>〔葉を解れり〕・吉大尚<sup>きちせしやう</sup>〔葉を解れり〕・許率母<sup>こそめ</sup>〔五經に明なり〕・角福牟<sup>かくふむ</sup>〔陰陽に閑へり〕に授く。小山下<sup>せうせんげ</sup>を以て、余<sup>あたし</sup>の達率等<sup>だつそつらう</sup>、五十余人に授く。童謡<sup>わらうた</sup>して云はく、

橘<sup>たちばな</sup>は 己<sup>おの</sup>が枝々<sup>ええ</sup> 生れれども 玉<sup>たま</sup>に貫く時  
同じ緒<sup>お</sup>に貫く

ここでは、法・兵・学・葉・法文・陰陽と分野が異なる人が同じ緒に貫かれ、一緒に扱われている、と揶揄されている。橘の実はその道に勝れた人の譬え。

すなわち、橘の花は美女に譬えられ、橘実は諸道に勝れ有為なる人物の譬えとして用いられる事が多く存する。ただしそこには、不変の忠節が求められることになる。

## 『万葉集』の中で

『万葉集』中にタチバナを詠んだ歌は多く入集している。前掲の葛城王が橘姓を許された折の歌は巻六、一〇〇九番歌である。これ以外に目につく歌としては次の如きが存す。

### 橘宿祢奈良麻呂、詔に応ふる歌一首

奥山の真木の葉しのぎふる雪の ふりは益す  
とも地に落ちめやも

（巻六・一〇二〇）

これは、右大臣諸兄の息男奈良麻呂が従五位下に叙された折の決意。忠誠を穢すことは無い、と。

### 大伴坂上郎女の歌一首

五月の花橘を君がため 玉にこそ貫け散らま  
く惜しみ

（巻八・一五〇二、「玉に貫く」状は図版・C）

### 高安の歌一首

暇無<sup>いとまな</sup>み五月をすらに吾妹子<sup>わきもこ</sup>が 花橘を見ずか  
過ぎなむ

（巻八・一五〇四）

大伴家持、橘の花をよちて坂上大嬢に贈  
れる歌一首并に短歌

いかといかと あるわが屋前<sup>いへ</sup>に 百枝刺<sup>ももえ</sup>し  
生<sup>お</sup>ふる橘 玉に貫く 五月を近み あえぬが

に 花咲きにけり 朝に日に 出て見るごと  
に 気の緒に わが思ふ妹に まそ鏡 清き  
月夜に ただ一目 見せむまでには 散りこ  
すな 努といひつつ ここだくも わが守る  
ものを うれたきや 醜ほととぎす 暁の  
うら悲しきに 追へど追へど なほも来鳴き  
て いたづらに 地に散らせば 術を無み  
よぢて手折りつ 見ませ吾妹子

### 反歌

十五夜降つ清き月夜に 吾妹子に見せむと思  
ひし屋前の橘  
妹が見て後も鳴かなんほととぎす 花橘を地  
に散らしつ

(巻八・一五〇七、一五〇八、一五〇九)

この五首では、橘樹が貴族邸宅の庭に栽培され  
ることもあったこと、花橘(橘の花、あるいは花の咲い  
た橘)は五月に咲き、多く女性に比されること、ホ  
トトギスは橘の花に寄り来る漢士の謂いであるこ  
と、となる。

### おわりに

柑橘類は常緑広葉樹であり、夏期に開花し、冬  
期に結実する。故に、そこに「不変」「不動」の概  
念が求められるのは当然といえは当然である。

橘は「タチバナ」の名を持つ。「タチバナ」は

すなわち「名の立つ花」であり、名をあげるとい  
うのである。美女としての誉れであれ、孝女・貞  
女としての生き様であれ、臣としての名誉であれ、  
名があげられる条件にプラスして忠節・不変の要  
素が加味されてタチバナに譬えられる名誉が存在  
する。恋愛においても不変なる誠実の心は求めら  
れて来た。

住吉神をはじめとする神々の教導に従って神功  
皇后は三韓征伐を成し給うた。新羅は「其れ船柂  
を乾さずして、春秋に馬梳及び馬鞭を献らむ」(『紀』  
本文と約定して、貢調の第一船に橘樹をたてて来  
朝した、と伝う。これを新羅の約定表明と見れば  
素晴らしい。しかし、その後の不誠実さからすれ  
ば、ポーズのみであったことになる。

何れにしろ、ここでは昔日住吉社に存した橘樹  
に誘発されて感慨を述べた。「橘」を柑橘類の総称  
とすることはあっても、ヤブコウジは慮外した(図  
―B参照)。ヤマタチバナ科の小低木であるヤブコウ  
ジは毒性が強く、柑橘類と同じ薬種ではないから



(図-B) 幸野樸嶺『草花百首』(木版、芸艸堂)

である。むしろ、タチバナを「橘」であるとして置く方が文化としての馴染みは得やすいのかもしれない。



(図版-D) 夏ミカンの花



ネーブルの花



(図版-C) タチバナの花と花の上部に「玉に貫く」



大実柚子

# 住吉開帳 こぼれ譚（俗謡）

住吉大社教学顧問

八木 意知男

幕末から明治二十年代にかけて世中は大きく変化した。そして、その変化の波は宗教界、就中、住吉大社も例外にはなかった。

今回、俗謡の中に住吉大社の関わる唄を二曲採り上げ紹介しておく。これは公式記録ではない。歓楽の巷に咲いた華である。公的な記録性を保有する俗謡は「住吉踊り」が存る。

「住吉踊り」は神事に繰り合わせられている故、最早公的なものである。しかし、ここに採り上げるものは、そんな公的性すら確認出来ないし、確認しようとする事そのものが野暮であろう。

ただ摂津国以外の唄に「住吉大社」あるいは「住吉」・「住吉っさん」等と呼ばれてあることが嬉しい。

○

三越峠を熊野街道中辺路にとり、源俊頼が

中宮亮仲実熊野へまゐりけるにつかはしける  
雲のゐる三越岩神越えん日は そふる心にかかれとぞ思ふ

（『散木奇歌集』巻五、七四七）

と詠った岩神王子を拝し、音無川の源流道川沿いに進むと猪ノ鼻王子（東牟婁郡本宮町三越猪之鼻）に着く。この

先は発心門王子。猪ノ鼻王子の隣地に船玉山（玉滝山）があり、船玉神社が鎮座する。熊野大社への舟参宮者・地元魚撈関係者があつく信仰する。ただし、船玉神社の創祠等は一切不明である。

ところで、花月楼大人『粹人世界』（明治三十一年、東雲堂）を見ると、端唄「紀伊の国」がある。その唄は次の如きである。

紀伊の国 おとなし川の水上に  
た、せたまふは 船玉山  
ふな玉十二しや 大明神  
さて東国にあたりては 玉姫いなりがみ  
めぐりへ 狐の嫁いり  
お荷物かつぐは がう力稲荷さま  
たのめバ田町の袖すりが こよひの待女郎  
なごどハまつきまつ黒な 黒介いなり  
につま、れて 子までなしたる信田づま

当該唄は、船玉十二社すなわち船玉神社と謂い乍ら、旁らの玉姫稲荷社の事が主題となっている。船玉十二社の事となれば名手立花屋橋之助が唄って流行った俗歌『神おろし船唄』であろう。

へわたしの父っさん船頭でござる。へ紀伊ノ国は牟婁の郡音無川の水上に、立たせ給ふは船玉山、

船玉十二社大明神、一の間天照大神宮、二の間が矢取りの正八幡、三の間春日大明神、帆は法華経の八の巻、帆車天徳大日如来、帆綱は綱引天満宮、棹は筑後の水天宮、板子は住吉大神宮、碇は金毘羅大権現、おもから、取楫ぢや、大天狗に小天狗、積み込む荷物は、七福神。船唄へ大島小島の間乗る船は、江差行きかよ、なつかしや、来たか長さん待つてたね、スイ／＼、イヤサホーラノエ、ヨイソロー、と言はなきや其日が送られる。

（明治四十年頃、那智勝浦温泉にて配られたパンフレット。ただし『俗曲全集』（日本音曲全集第七巻、昭和二年）にも。）

ここには船玉十二社の祭神が唄われ、中に「板子は住吉大神宮」と住吉神も含まれる。そして、この唄は明治期の船玉神信仰の一例をも示しているといえる。俗歌・俗謡が民謡として一地方に発生し、地方花柳界で唄われたものであっても、当該唄の如く中央花柳界へ伝えられ流行ったものは、それなりの意味をもっていると考えなければならない。信仰の伝播の問題である。

○

時は昭和二年（一九二七）、『日本音曲全集』（日本音曲全集刊行会）の第七巻として、中内蝶二・田村西男の編輯にて『俗曲全集』（非売品）が出版された。そこに『伊予節』が収められてある。その中の一節に次が有る。

へ塚住吉、刎り橋渡る、奥の天神、五大力、お元社や神明穴から、大神宮を、伏し拝み、誕生石には、石を積む、赤前垂が出て招く、ゴロゴロ煎餅、竹馬に、麦藁細工に、つなぎ貝、買は

しやんせ。

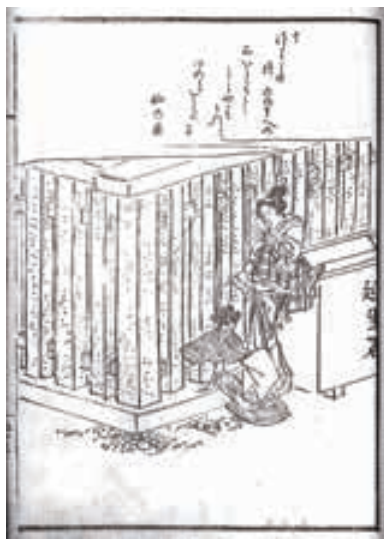
これは弘化三年（一八四六）頃に江戸で流行った伊予民謡という。明治に入って一旦廃れたが昭和に入って再び花柳界で三味線唄として唄われるようになったとされる。

当該住吉社の一節は、地元で配られた『伊予節』の刷物には見えない。

右に唄われる住吉つさんには「五大力」が認められ、所謂廃仏毀釈以前の姿と思われる。また、「誕生石には、石を積む」と有り、誕生石に祈る人が石を一つ宛積み供える風が信仰作法としてあったことを示している。そして興味深いのは、華表の景である。



浪花百景「住よし五大力」



誕生石『住吉詣狂歌集』より

華表に広がり「赤前垂が出て招く」人々、そして店々を笑い顔で覗き込んでいる景は、住吉大社社領新家。社頭地門前に展開する町屋である。この新家町の有り様を記す書は種種に存するが、ここでは『摂津名所図会』と『浪華の賑ひ』の二書を掲げて置く。

摂津名所図会 卷一

(寛政十年)

浪華の賑ひ 二篇

(安政二年)

新家町（この地西成郡なり。しかれども連綿たればここに出だす）

この所の名物は金魚・酢蛤・ごろごろ煎餅・蕎麦・昆布・竹馬・糸細工・麦藁細工等なり。両側に貨食の家列なり、三文字屋・伊丹屋・昆布屋・丸屋など莊を風流に営み、鱈魚の鮮らけきをもって饗応し、女奴は粧粉を施し、蔽膝の赤きに天鵝絨の襟、松金油に雲鬢を董らせ、（以下、略）

住吉新家（住吉西の鳥居前の北をいふ）  
（前略）左右に肉舗軒をつらね、参詣の貴賤をとどむ。中にも三文字屋・伊丹屋の両家はすこぶる大家にして、宴席・庭前もつともよし。なほまた、この地の名物とて、とらや煎餅（ごろごろやといふ）・麦藁細工・竹馬・土人形その外種々の土産ものを製して売る家多く、四時ともに賑はひて繁昌大かたならざる、偏に住吉明神の御余光といふべし。

彼是を比較して見ると如何に近しい世界があるかが知られる。さらに見落してならないのは、『住吉公園 歴史探訪』誌第六号（二〇二〇年三月）に掲載の小出英詞氏「明治初期の住吉門前町」である。小出氏が社頭に形成された町を復元して見せたものは、住吉詣の基底であり洵に労作である。



明治初期の住吉門前町の復元図

住吉社社頭の賑わいも、その後の参詣手段が変化すると共に姿を大きく替えざるを得なかった。特に紀州街道に電車が走り、やがて家用自動車为中心的な交通手段となると、ブラ見する街ではなくなり、上の『伊予節』の景は昔日の残照に過ぎない。

# SNSの活用について

住吉大社では、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した広報活動に力を入れております。フェイスブックやインスタグラムを活用し、日々の奉仕や祭典などについて発信しています。

SNSは若者の間で広く利用されています。若い年代を中心に神社や神道に接する機会が無かった方々へ、神社を知り、興味をお持ちいただく入口としての役割を担っています。また、日ごろから崇敬いただいている皆様にも、住吉大神との更なるご縁を感じていただく一つのきっかけにSNSをご覧いただきたいと思います。

令和3年度から、試験的にSNSを活用した祭典のライブ配信を行っております。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため祭典の規模を縮小し、神職のみで祭典の斎行を余儀なくされています。その中で住吉祭や観月祭などのライブ配信を行うことで、ご覧いただいた崇敬者や遠方にお住まいの方々にも、お祭りの息遣いが伝わる事を期待しております。

今後もライブ配信を継続し、より身近に住吉大社を感じていただければと思います。コロナ禍において、参拝に訪れる機会が減る中で、SNSを通じ「心の拠り所」としての神社の務めを果たしていければと思います。

（権禰宜 星野 克輔）



# 社務日誌抄

(令和三年五月から一月分まで)

## 令和三年

### 五月

一日 緊急事態宣言、四月二五日より継続中。

朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭(※以下、各恒例祭に併せて疫病流行鎮静祈願祭を執行。全国弓道大会中止。日供祭の神饌改正。

七日 卯之葉神事(奉納行事停止)。観光庁 多言語解説整備支援事業オリエンテーション(リモート) 岡禰宜・高階 小出権禰宜出席。

八日 初辰大祭(参列停止、祈禱のみ奉仕)・楠珪社例祭。

一〇日 市戎大国社月次祭。毎日新聞(辰巳商会と港住吉神社について) 神武権宮司取材。

一二日 政府、緊急事態宣言を延長(五月三一日迄)。

一三日 大海神社月次祭。ベイコム番組「チームベイコム」卯の花苑撮影。

一四日 住吉公園事業会議(リモート) 小出権禰宜出席。

一五日 十五日祭。NHK大阪岡禰宜対応。

一七日 新宮社例祭。浅澤社例祭。

一九日 斎館修理工事竣功祭。

二〇日 海上交通安全祈願祭。

二二日 記録的豪雨により第二本宮幣殿・渡殿(重要文化財) 接続部に損傷等発生(大阪市内における五月最多雨量一九二ミリの記録的豪雨による)。

二三日 (一財) 住吉村常盤会評議員会 小出権禰宜出席。神道青年会理事会(リモート) 日下権禰宜出席。

二四日 住吉大社会計監査会、責任役員 太田重彦氏・専任会計士 山下孝士氏・同 小島康秀氏・神武権宮司・中野権禰宜・柳生吉田石橋主事出席。

二五日 サノヤスホールディングス(株)顧問 故南雲龍夫氏お別れ会 宮司

参列(リーガロイヤルホテル) 高階権禰宜随行。

二八日 浅沢社月次祭。御田耕起 御田講二八名奉仕。

政府、緊急事態宣言を再延長(六月二〇日迄)。

三〇日 月末清掃。

三一日 月末清掃。(学)浪速学院理事評議員会 神武権宮司出席。

### 六月

一日 朔日祭。貴船社例祭。初辰祭。

三日 神功皇后正辰祭。宮司参列(神功皇后陵) 星野権禰宜随行、職員は第四本宮にて通拝。

四日 観光庁 多言語解説整備支援事業ミーティング(リモート) 岡禰宜・高階 小出権禰宜出席。

六日 (公財) モラロジー道德教育財団「伝統の日感謝の集い」近畿ブロック講演会(リモート) 小出権禰宜講師。

七日 責任役員会・常任総代会・総代会(書面回議)。大阪府神社庁栄誉委員会 宮司出席(神社庁)。

一〇日 市戎大国社月次祭。京セラ美術館「第七十五回 文人展」宮司観覧(自筆書出展)。文化庁 文化財利用高付加価値促進事業住吉地区事業ヒアリング(リモート) 小出権禰宜出席。

一二日 卯之日祭。

一三日 大海神社月次祭。御田代撞・苗取等 御田講二八名奉仕。

一四日 御田植神事(神賑行事・参列停止、但し第一本宮前に於て田舞・風流武者行事を斎行)、御田講 副講元 濱田孝氏・J A 大阪市代表理事組合長 菱井由一氏・武者行事保存会 住吉青年団団長 角家元二氏玉串拝礼、奉耕者三〇名奉仕。テレビ大阪・ベイコム・大阪日日新聞・大阪観光局取材・アコッダー記録撮影。

一五日 十五日祭。八所社例祭。殺陣専門 助太刀屋十八番 境内撮影。  
社報『住吉っさん』第三六号発行。

二〇日 海上交通安全祈願祭。

政府、緊急事態宣言を解除、蔓延防止等重点措置に移行（七月  
一日迄）。

二二日 (株)二助企画 取締役社長 大津直樹氏以下八名 猿まわし奉納。

二四日 観光庁 多言語解説整備支援事業現地視察取材、国土交通省近畿  
運輸局観光部観光地域振興課専門官 中井浩介氏・同 地域係長  
前田拓也氏・観光庁観光地域振興部観光資源課地域資源活用推  
進室企画係長 河北百合氏・同 主査 栗山頌子氏・本事業事務局  
凸版印刷(株) 査澤佳氏・エクスポートジャパン 福島妙氏・フラ  
ンクウォルター氏・ジャスティンブルック氏・ジョナサンソー  
ブル氏来社、岡禰宜・高階 小出権禰宜出席(翌日迄)。

二五日 東洋きもの学院 境内撮影。

二七日 吉祥殿ブライダルフェア。

二八日 浅沢社月次祭。

二九日 摂末社清掃。

三〇日 禊行事。月末清掃。(公財) 大阪府文化財センター 定時評議会 官  
司出席(同本部事務所) 星野権禰宜随行。明石柿本神社 禰宜 岩  
林理氏夫妻来社。労働基準法に基づく労働者代表選挙(代表 武  
田昌也)。神社事業部会合。水無月大祓式。

七月

一日 朔日祭。辞令・橋本 松原 武田 元村各神楽女見習、神楽女を命  
ずる。住吉公園事業会議 小出権禰宜出席。

三日 BS 団会議 日下 附柴 鈴木各権禰宜出席。

五日 堺大魚夜市安全成功祈願祭。神職採用面接試験。港住吉神社手  
水舎人感センサー自動給水具設置 宮司・神武権宮司立会(株)辰  
巳商会創立一〇〇周年記念事業奉納)。

六日 卯之日祭。大阪書林御文庫講定例参拝・総会、日本書籍出版協  
会大阪支部 支部長 岡本功氏・大阪出版協合理事長 矢部敬一氏・

大阪書林御文庫講 講元 藤波優氏以下参拝。

七日 星宮例祭。初辰祭。リクロー(株)創立六五周年記念祭、代表取締

役社長 西村一夫氏以下参拝。W A R A K A S U (代表 春元美紀  
子氏「はったつさんうたまつり」奉納。

八日 伊藤園(株)住吉祭 緑茶缶一万本奉納。

九日 (株)辰巳商会名誉会長 故高森昭氏お別れ会 宮司・神武権宮司参  
列(リーガロイヤルホテル 星野権禰宜随行)。

一〇日 市戎大国社月次祭。御田合鴨放鳥 帝塚山子ども会(会長 小出英  
詞氏) 児童一九名参加、岡禰宜講師。ベikom 取材。

一三日 大阪船主会 海上安全祈願祭、大阪船主会 会長 小野晃彦氏・近

畿海事広報協会 会長 間嶋弘氏・近畿運輸局 局長 金井昭彦氏・  
大阪海上保安監部 監部長 花井宏泰氏以下一五名参列。大海神  
社月次祭。

一四日 港住吉神社宵宮祭。

一五日 十五日祭。港住吉神社例祭、副総代長 赤野久雄氏以下二〇名参  
列。

一六日 樽井漁業協同組合 船井貴久氏参拝。「こはま日和」取材。

一七日 キヤノンEOS 学園大阪校 境内使用。

一八日 吟道粹心流星華吟詠会参拝。

二〇日 海上交通安全祈願祭。岡田充司氏 楠高社神前幕奉納。

二一日 斯主社例祭。春木漁業協同組合 組合長 石田茂氏以下参拝。在

大阪モンゴル総領事館 岡禰宜・宮寄権禰宜訪問。

二二日 神輿洗神事(神賑行事中止、閉門後の第一本宮前庭にて汐掛等  
奉仕) 住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下二六名参列。

二五日 吉祥殿ブライダルフェア。八坂神社大総所二代目大和法眼 谷本  
蘇牛氏来社 岡禰宜面談。御祓講獅子会議 万力禰宜・西角権禰  
宜出席。

二八日 浅沢社月次祭。大阪府神社庁第九支部定例会 日下権禰宜出席。

三〇日 住吉祭 宵宮・神輿遷靈祭(神賑行事等停止、露店商出店不許可、  
通常閉門) 住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下参列。部課長会。  
宮司以下祭員参籠。

三一日 住吉祭 例大祭(参列停止)。夏越祓神事(閉門後)。宿院頓宮 大鳥大社神輿渡御祭、大鳥大社 宮司 水無瀬忠俊氏以下八名奉仕。

## 八月

一日 住吉祭 朔日祭・疫病流行鎮静祈願祭。桔梗献花式、平野坂上七名家当屋 辻蒔敏克氏奉仕。神輿渡御(車輛にて鳳輦・中神輿を渡御) 発輿祭・頓宮祭・荒和大祓神事・還輿祭・還靈祭。

二日 人形流神事、堺市沿岸漁業協同組合奉仕。住吉警察署 住吉消防署 住吉祭御礼挨拶 岡禰宜訪問。

三日 政府、緊急事態宣言の対象地域に大阪府を追加(三一日迄)。

四日 次年度神楽女新規採用選考職場見学会。

五日 住吉税務署 署長 中内紀和氏・同副所長 辻巳夫氏・同総務課長 山岸隆美氏 新任挨拶。大阪府神社庁 庁長 藤江正謹氏・同参事 飯田祐子氏来社。

六日 住吉名勝保存会事業会議 宮司・小出権禰宜出席(住吉武道館)。

七日 アイコム(株)参拝 無線機奉納。

八日 薄墨社例祭。

九日 台風九号の影響による強風のため市戎大國社拜殿献灯木製枠が破損。

一〇日 市戎大國社月次祭。

一一日 卯之日祭。

一二日 初辰祭。

一三日 大海神社月次祭。

一四日 十五日祭。

一六日 山茶花社家元 西島真森氏来社。

一七日 御田作業 御田講二一名奉仕。

一八日 海上交通安全祈願祭。

一九日 今宮高等学校 一年生二名職場調査受入。

二〇日 大阪府神社庁第九支部祭式研修会 日下 福山西角権禰宜参加。

二一日 浅沢社月次祭。

二二日 吉祥殿ブライダルフェア。

三一日 月末清掃。献詠俳句選者会 撰者 古賀しづれ氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏 楠本義雄氏選考。職員会議。

## 九月

一日 朔日祭。楯社例祭。

二日 献詠短歌選者会 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏選考。

三日 卯之日祭。

四日 初辰祭。

五日 志賀神社例祭。

六日 政府、緊急事態宣言を再延長(三〇日迄)。

七日 市戎大國社月次祭。献茶式、表千家宗匠 左海大氏以下奉仕。觀光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」当社参加「住吉地区の高付加価値観光を考える実行委員会」事業採択。神社本庁辞令…住吉大社禰宜 岡田将男、神職身分二級上。

八日 表千家不審菴・半床庵 高階 星野権禰宜訪問。

九日 大海神社月次祭。

一〇日 献茶式、裏千家家元 坐忘齋千宗室氏以下奉仕。

一一日 十五日祭。裏千家今日庵 高階 星野権禰宜訪問。

一二日 次年度神楽女採用選考会。

一三日 児安社例祭。

一四日 海上交通安全祈願祭。

一五日 観月祭(産経新聞社後援、(株)末廣堂協賛)、奉納行事・参列招待者なし。献詠短歌天位「牛舎からぬつと顔出す牛もいて我と観ている今日の月なり」北村純一氏・地位「連れ立ちて家路に月を浴びながら妻の落とせる影の小ささ」横島茂氏・人位「図書館にて子へ紙芝居読みをれば見知らぬ子らに囲まれゆきぬ」四葉るり子氏、俳句天位「傷つきし地へ月光の惜しみなく」新宮 すす子氏・地位「歌神へ捧ぐる秀句月高し」島野ちず子氏・人位「野良着にてそのまま月の客となる」門川清秀氏。大阪府従業員組合慰霊祭 富澤権宮司以下奉仕。神道青年会研修会 西角

奥野権禰宜参加。観光庁実証事業実行委員会 小出権禰宜出席。  
二三日 皇霊殿遷拜式。招魂社秋季例祭。神馬塚 宮司参拝、高階権禰宜  
随。住吉祭祀図研究会 小出権禰宜出席。

二五日 すみよしの歴史ガイド養成講座 小出権禰宜講師(住吉区民セン  
ター)。

二七日 神宮大麻暦頒布始奉告祭 富澤権宮司・日下 福山権禰宜祭員奉  
仕(神社庁)。

二八日 (一財)住吉村常盤会理事長 太田重彦氏来社奉賽。

二九日 住吉公園事業会議 小出権禰宜出席。日本経済新聞 高燈籠取材。

三〇日 月末清掃。職員会議。七五三撤下作製公開 共同通信 読売新聞  
読売テレビ 大阪日日新聞 奈良新聞取材。  
政府、本日をもって緊急事態宣言を解除。

## 一〇月

一日 朔日祭。南海電鉄「なんかいいね!すみっこぐらしスタンプラ  
リー」境内使用(二月二十六日迄)。

二日 甲種防火管理者講習 庄司権禰宜受講。神道青年会研修会 西角  
星野 奥野権禰宜受講。BS団会議 日下 附柴 西角 鈴木 奥野権  
禰宜出席。

三日 吉祥殿ブライダルフェア。

七日 住吉名勝保存会事業会議 小出権禰宜出席。

九日 大歳社例祭。元国務大臣・大谷学園名誉学園長 故左藤恵氏合同  
葬 宮司参列(真宗大谷派難波別院) 高階権禰宜随。

一〇日 卯之日祭。市戎大國社月次祭。元帝塚山学院短期大学学長 鶴崎  
裕雄氏令室計報 神武権宮司 高階権禰宜弔問。

二日 初辰祭。大阪眼鏡商工連合会 会長 西村文子氏以下・めがねの  
碑維持管理委員会祈願祭 委員長 岸田二彦氏以下一〇名参拝。  
生間流庖丁式中止。

二二日 大阪府宗教連盟 理事総会 住吉大社大会、理事長 寺田裕司氏(天  
理教大阪教区長) 以下三十二名参拝。同記念講話 小出権禰宜講  
師。

一三日 大海神社例祭、大海協議会 北村泰規氏・大阪市漁業協同組合  
村英一郎氏以下二十四名・大海神社龍宮講員以下参列。大海協  
議会海上安全祈願祭。清風情報工科学院 校長 平岡憲人氏以下  
二〇〇名 終業式記念参拝。

一五日 十五日祭。おいとしほし社秋季例祭。

一六日 龍社例祭。帝塚山派文学会講座 小出権禰宜講師。

一七日 神宮神嘗祭遷拜式。御田刈初式、宝之市神事、御田講 濱田孝氏  
山本巖氏奉仕。東洋きもの学院専門学校学生五名 市女奉仕。大  
阪市立美術館特別展「聖徳太子 日出づる処の天子」宮司観覧。

一八日 十八日会 宮司出席(大神神社) 星野権禰宜随。

一九日 后土社例祭。聖徳太子千四百年御聖忌慶讃大法会 宮司参列(四  
天王寺) 星野権禰宜随。御田作業 御田講二名奉仕。日本経  
済新聞夕刊「よことん調査隊」住吉高燈籠の特集掲載。

二〇日 海上交通安全祈願祭。

二一日 船玉神社例祭。皇學館大学評議員会 宮司出席。

二二日 御田稲刈 御田講一三名奉仕。

二四日 大阪府神社スカウト協議会 坂野山下権禰宜出席。

二五日 職員インフルエンザ予防接種。

大阪府、本日をもって飲食店時短要請を解除。

二六日 高野山金剛峰寺 逸見権禰宜 太田権禰宜訪問(三銘松の件)。

二八日 大阪府神社庁役員会 富澤権宮司出席。皇學館大学共通科目 小  
出権禰宜講師。

二九日 アサヒ飲料(株)代表取締役 米女太一氏参拝 七五三詣協賛 三ツ  
矢サイダー五〇〇本奉納。

三〇日 月末清掃。堺の無形文化資産を考えるシンポジウム 岡禰宜参加。

市戎大國講例祭打合会 川畑 逸見権禰宜 福山 中川権禰宜出席。

三一日 月末清掃。自動車マナーアップ強化月間につき大阪府交通対策  
協議会 交通啓発活動 境内に於て白バイ展示。すみよし博覧会  
境内開催、菜種油奉納式、武田権禰宜対応。吉祥殿ブライダル  
フェア。

## 大阪府宗教連盟

# 住吉大社にて理事総会を開催



10月12日(火)大阪府宗教連盟の理事総会が、今年度の担当団体である大阪府神社庁の藤江正謹庁長(杭全神社宮司)のご依頼により、今回は住吉大社にて開催の運びとなりました。

当日のご来賓には近畿宗教連盟理事長の荒木元悦様(臨済宗大本山相国寺塔頭 光源院住職)、同事務局長の長澤香静様(京都仏教会事務局長・大黒山北寺住職)をお迎えして、大阪府宗教連盟理事長の寺田裕司様(天理教大阪教区長・網島分教会長)以下の皆様にご参拝いただきました。

寺田理事長以下のご参加者は次の通りです。村山廣甫様(大阪府佛教会・曹洞宗東光院)、足立博史様(大阪府神社庁・神津神社)、一宮良範様(念法真教総本山金剛寺)、唐井正篤様(浄土宗極楽寺)、川上恵三様(大阪神社連合会・梶無神社)、森快隆様(真言宗御室派葛井寺)、白井忠雄様(融通念仏宗宝泉寺)、二上寛弘様(高野山真言宗釈迦院)、立石泰教様(浄土真宗本願寺派浄泉寺)、丹農秀和様(浄土宗専称寺)、清澤悟様(真宗大谷派願得寺)、増田友信様(真宗大谷派圓勝寺)、平田教信様(真宗高田派善友寺)、井桁貴志様(浄土宗大圓寺)、寺井種治様(大阪天満宮)、田所貞文様(泉井上神社)、飯田祐子様(大阪府神社庁)、三宅善信様(金光教春日丘教会)、池田幸雄様(出雲大社高津分祀)、吉川南津喜様(出雲大社大阪大教会)、伊藤忠茂様(大本大阪本苑)、梶山貴史様(新日本宗教団体連合会大阪事務所)、前田芳峻様(念法真教総本山金剛寺)、青木豊太郎様(天理教豊繁分教会)、咲摩定夫様(天理教歌島教会)、宮田幸一郎様(天理教池田大教会)、二宮勇三様(天理教大阪教務支庁)。

令和3年

# 住吉かかしプロジェクト



「住吉かかしプロジェクト」は住吉大社がすすめる食育プログラムです。

都市部在住の児童らに稲作体験と食育の機会を提供すると共に、かかし製作を通して日本文化と伝統への理解を深めることを目的として活動しています。

令和3年で活動9年目を迎え、住吉区・住之江区の小学校や幼稚園・保育園が参加しました。また、旭区・港区の小学校からも参加があり、活動に拡がりを見せています。今年は最多となる31体のかかしが御神田を守りました。新型コロナウイルス感染症収束の願いがこめられた「アマビエ」の姿をしたものや、スズメが近寄らないように牙をむいた動物など、可愛らしさのなかにも子供たちの創意工夫が詰まった作品ばかりです。

活動は来年で10年の節目を迎えます。今後も地域の皆さんと連携を取りながらすすめて参りたいと存じます。

(禰宜 岡 康史)





A woman with dark hair in a ponytail, wearing a white long-sleeved shirt and a white face mask, is shown in profile from the waist up. She has her eyes closed and her hands clasped together in a prayer gesture. The background is a blurred outdoor setting with green foliage and a traditional Japanese building with a tiled roof.

 住吉大社

すみよしの初詣は

ゆつたりもうで

お一人おひとりが距離を保ち、余裕をもってご参拝ください

# 令和四年 住吉大社の初詣

12月1日～3月末まで

住吉大社では、皆さまに安心してご参拝いただけるよう、様々な対策に取り組んでおります。

- ・各所にアルコール消毒液を設置
- ・手水舎の柄杓、拝殿の鈴緒を撤去
- ・携帯電話を利用したおみくじアプリの実施
- ・通信での各種祈祷と授与品発送
- ・各授与所の、アクリル板もしくはビニールの仕切り設置
- ・職員のマスク着用、手洗い、消毒の徹底 など



令和四年の初詣は、混雑を避け皆さまにゆっくりと安心してご参拝いただけるよう、12月1日から3月末までといたしました。皆さまお一人おひとり余裕をもって初詣にお越しくださいますようお願いいたします。

※授与品は十分な数を準備しておりますが、無くなり次第終了します。

## 年末年始の 露店の出店はありません



毎年、ご参拝の皆様にお楽しみいただいている露店ですが、残念ながら令和四年は一切出店がございません。

## 1月1日～5日は 午後6時に閉門します

|         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 12/31   | 開門22:00 | →       |
| 1/1     | →       | 閉門18:00 |
| 1/2～1/5 | 開門 6:00 | 閉門18:00 |
| 1/6～    | 開門 6:30 | 閉門17:00 |

1月1日～5日は、例年とは異なり午後6時に閉門しますので、ご注意ください。

おふだ・おまもり

# オンライン受付

〽配送による神札・御守などの受付を実施しております〽



オンライン授与所

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、また、様々な理由で直接ご参拝できない方々のために、当社では神札・御守・授与品の配送を行なっています。パソコン・スマートフォンからお申し込みいただけますので、左記の期間と要領でご利用くださいませ。

記

## 受付の期間

令和3年(2021) 12月1日～  
令和4年(2022) 3月31日。

## 発送の期間

お申込みの時期によって発送時期が異なりますのでご注意ください。

○年内お申込みの方

12月24日(金) 受付分までは年内に発送いたします。

○年始お申込みの方

1月6日(木) 以降に順次発送の予定です。

## 御朱印について

御朱印の日付は、お申込みされた日付を記入して配送いたします。

## ご注意とお願い

お申込みはオンラインのみです。電話・FAXでは受付いたしておりません。年始のお申込みについては、繁忙期につき、配送の手配にお時間をいただく場合があります。

そのため、お手元にお届けするまでお時間をいただきますことご了承くださいませ。

以上



住吉っさんは、様々な種類のおふだ・おまもりがございます。  
是非ともご覧になってください。



令和4年

## 初詣に於ける住吉大社の感染症対策について

住吉大社では、ご崇敬の皆さまが安心してご参拝いただけるよう環境整備に努めてまいります。

- ① 御札や御神矢などの授与品は12月からご用意しております。
- ② 混雑状況により入場を制限する場合があります。
- ③ 12月31日～1月5日まで、露店の出店はありません。
- ④ 1月1日～5日まで、午後6時に閉門します。
- ⑤ 来場者の密接を避けるため、臨時駐輪場を分散して開設します。
- ⑥ 体調がすぐれない場合や発熱のある場合などは、来場をおひかえください。
- ⑦ マスクを着用し、間隔を空けて参拝していただくよう広報します。
- ⑧ 各所にアルコール消毒液を準備します。
- ⑨ 社務所・祈祷所の各所に次亜塩素酸空間除菌脱臭機を設置しています。
- ⑩ 祈祷用椅子、トイレ等に抗ウイルス処理を施します。
- ⑪ おみくじの筒に抗ウイルス処理を施します。  
また、筒を触らずにおみくじが引ける、スマートフォンアプリの活用を勧奨します。
- ⑫ 感染症対策実施マニュアルを作成し職員の衛生管理に努めます。

これからの状況を踏まえ、随時対応策を検討・導入して参ります。

住吉大社

住吉大社 SNS



HP



Instagram



Facebook

|       |     |        |                  |                     |
|-------|-----|--------|------------------|---------------------|
| 1月1日  | （祝） | 5時00分  | 若水の儀             | 第四本宮前神井             |
| 1月3日  | （月） | 6時00分  | 元旦祭（中祭）          | 第一本宮・摂末社            |
| 1月4日  | （火） | 8時00分  | 元始祭              | 第一本宮                |
| 1月7日  | （金） | 13時00分 | 踏歌神事             | 第一本宮                |
| 1月9日  | （日） | 10時00分 | 白馬神事・昭和天皇陵遙拝式    | 第一本宮                |
| 1月10日 | （祝） | 10時00分 | 市戎大国社育宮祭（宵えびす）   | 末社市戎大国社             |
| 1月12日 | （水） | 10時00分 | 市戎大国社育宮祭（本えびす）   | 末社市戎大国社             |
| 1月13日 | （木） | 11時00分 | 若宮八幡宮例祭（湯立神事）    | 摂末社若宮八幡宮            |
| 1月15日 | （土） | 10時00分 | 御結鎮神事            | 第一本宮・武道館前弓場         |
| 1月27日 | （木） | 9時00分  | 古札焼納式（こんど）       | 南駐車場                |
| 2月1日  | （火） | 10時00分 | 新年献詠祭            | 第一本宮                |
| 2月3日  | （木） | 10時00分 | 今主社例祭            | 末社今主社               |
| 2月11日 | （祝） | 10時00分 | 立間社例祭            | 末社立間社               |
| 2月23日 | （祝） | 10時00分 | 海士子社例祭           | 末社海士子社              |
| 2月3日  | （木） | 10時00分 | 節分祭・追儺歩射式        | 第一本宮・神館             |
| 2月11日 | （祝） | 10時00分 | 紀元祭（中祭）・橿原神宮遙拝式  | 第一本宮                |
| 2月23日 | （祝） | 10時00分 | 天長祭（中祭）          | 第一本宮                |
| 3月5日  | （土） | 10時00分 | 侍者社例祭            | 末社侍者社               |
| 3月17日 | （木） | 10時00分 | 種貸社神種頒賜祭         | 末社種貸社               |
| 3月21日 | （祝） | 9時30分  | 祈年祭（大祭）          | 第一本宮                |
| 4月1日  | （金） | 10時00分 | 皇霊殿遙拝式           | 神楽殿                 |
| 4月3日  | （日） | 11時00分 | 招魂社春季例祭          | 末社招魂社               |
| 4月6日  | （水） | 10時00分 | 五社春季例祭           | 末社五社                |
| 4月9日  | （土） | 10時00分 | 松苗神事・神武天皇陵遙拝式    | 第一本宮                |
| 4月10日 | （日） | 10時00分 | 正印殿祭             | 住吉行宮正印殿跡            |
| 4月14日 | （木） | 11時00分 | 種貸社例祭            | 末社種貸社               |
| 4月15日 | （金） | 10時00分 | 港住吉神社楠玉稻荷社例祭     | 境外末社港住吉神社内<br>楠玉稻荷社 |
| 4月20日 | （水） | 10時00分 | 鈴社例祭             | 末社鈴社                |
| 4月29日 | （祝） | 11時00分 | おいとしぼし社春季例祭      | 末社大蔵社内              |
| 5月1日  | （日） | 14時00分 | 島津忠久公誕生記念祭       | 誕生石                 |
| 5月2日  | （月） | 10時00分 | 昭和祭（中祭）          | 第一本宮                |
| 5月3日  | （祝） | 8時00分  | 全国弓道大会祈願祭        | 第一本宮・武道館前弓場         |
| 5月17日 | （火） | 13時00分 | 卯之葉神事            | 第一本宮                |
| 6月1日  | （水） | 10時00分 | 初辰大祭             | 末社種貸社・楠琺社・          |
| 6月14日 | （火） | 10時00分 | 浅澤社例祭            | 浅澤社・大蔵社             |
| 6月15日 | （水） | 10時00分 | 貴船社例祭            | 末社楠琺社               |
| 6月30日 | （木） | 10時00分 | 御田植神事【重要無形民俗文化財】 | 末社新宮社               |
| 6月30日 | （木） | 13時00分 | 八所社例祭            | 末社浅澤社               |
| 6月30日 | （木） | 15時00分 | 大祓式              | 末社貴船社               |

※朔日・卯之日・海上交通安全祈願祭などの恒例祭に準ずるものは省略

元祖 さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔

住吉の物産であつたさつま芋を

形どつたなにわの味、

昔からの銘菓であります。

十勝小豆を精製した

淡泊な味のこしあんを、

秘伝の皮で包み、

心を込めて、一本一本竹串に刺して

焼き上げております。

幾星霜の老舗の味をご賞味ください。

摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処

御菓子司

株式会社

東斎堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目二一〜二四

TEL〇六（六六七）四四二八

〇六（六六七）八八一三〇

FAX〇六（六六七）三〇一九

第37号の表紙

住吉踊

住吉踊の踊り子（童女）は、僧形の衣装に手甲・脚絆をつけ、草鞋をはき、菅笠の縁に茜染の布を垂れめぐらし、五色絹と鈴がついた団扇を持ち、飛び跳ねて心の字を描くように踊る。



日本の伝統  
花嫁の正統。

 住吉大社吉祥殿

Tel 06-6675-3591 fax 06-6675-3311

URL <http://www.sumiyoshitaisha.jp>

〒558-0045 大阪市住吉区住吉 2-9-89

(水曜定休日)

令和3年(2021)12月15日発行(年2回発行)

発行人 高井道弘 発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

Te l

06・6672・0753

印刷 真生印刷株式会社